

「授業の改善・充実のための取組」(算数)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

Ⓣ TT指導 ☆チャレンジコース ★じっくりコース

課題の設定

1. めあて(ねらい)の設定において

○単元のはじめに

- ・本単元の学習に興味・関心がもてるように、本単元に関連する身の回りの事象を取り上げるようにする。
- ・目的意識をもって主体的に取り組めるように、既習の学習内容に基づいて課題解決の見通しを十分もてるようにする。

○授業のはじめに

- ・問題場面をイメージし、題意を把握できるようにするために、
 - ★具体物や絵図の提示したり、問題の数値を工夫したりする。
 - Ⓣ二人の教員が協働して問題場面を具体的に提示する。

既習事項の活用の工夫

- ・算数コーナー(掲示物)を設け、既習事項を常に振り返ることができるようにする。
- ・前時までの問題との類似点や相違点を明らかにして、本時のめあてを児童の言葉をふまえて提示する。
- ・算数コーナーや、ノートを振り返らせたりして、本時の問題解決に必要な既習事項を各自(☆)または全体(★)で確認する。
- ・本時に必要な既習事項を基に、解決の見通しを十分にもてるようにする。

追究する場面における手だて

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

- ・一人一人が自分の考えをもてるように、自力解決の場を必ず設定し、考える時間の確保と適切な支援を行う。
 - ☆1つの方法で追究できたら、他の方法で追究させるようにする。
 - ★支援コーナー、適切なアドバイス等、個に応じた支援を工夫する。
 - Ⓣお助けコーナーを設けたり、習熟度別に集めたりして、支援を行う。

考えを広げたり深めたりする工夫

- ☆多様な方法で考えさせ、取り上げる考え方を精選する。
- ★どの児童にも身に付けさせたい方法について考えさせ、その考え方について理解を深められるようにする。
 - ・既習の基礎的・基本的な知識・技能をもとに、考えや根拠を記述したり、説明したりする活動を行う。
 - ・意味理解を確実なものにするために、「なぜ、そのように考えたのか」を常に問いかけ、根拠を明確にしながら説明できるようにする。
 - ・ペア、グループ等、説明し合う活動を習熟度や学習課題に応じて工夫する。
 - 指サイン(低学年)、説明作文・キーワードを用いた説明(中高学年)等
- ☆全体で理解を深められるように、自分の考え方を説明したり、友達の考え方を読み取ったりするなど、根拠を明確にした考え方を交流する場を設ける。
 - 自分の考え方を言葉や図、式など数学的な表現を用いて説明する。
 - 友達が書いた図や式を見て、考え方を推測し説明する。
 - 友達の考え方を聞き、そこから式や図を予想する。
- ★理解を深められるように、同じ考え方でも複数の児童に自分の言葉で説明する活動を行う。
 - ・再考してよりよい考えを見出し(見つけ)、自分の考えがもてるようにするために、明確な視点(共通点や簡潔性等)を示して比較・検討する活動を行う。

まとめの場面における手だて

3. 振り返り・まとめにおいて

○授業のおわりに

- ・学習課題に沿った振り返りを行い、分かったことを中心に児童の言葉を受けてまとめ、板書する。(「このような問題は、こうすれば解ける」)
- ・見出した知識・技能・考え方を確実なものとするため、習熟度に応じた適用問題に取り組む。

Ⓣ まとめ、板書、補充指導等、役割を明確にして分担する。

○単元のおわりに

- ・身に付けた知識・技能・考え方を活用する問題に取り組む。
 - ☆本時の問題と同レベルや発展問題に取り組む。
 - ★本時の問題と同レベルの問題に複数取り組む。